

『真央ちゃんになりたい！』 シノプシス

脚本:初稿(2010年11月。一部修正)

2004年。テレビの画面でまだ高校生の浅田真央がフィギュアスケートを滑っている。その画面に釘付けになっている幼いサトル……

8年後……学校の男子トイレで同級生たちからイジメを受けている中学1年生のサトル(12)。サトルは子供の頃からフィギュアスケートを続けていたが、母、久美(享年35歳)の交通事故死を期に辞めてしまっていた。一方、サトルと一緒に同じスケートリンクでフィギュアスケートを習ってきた中学2年生の少女・ユンナ(13)は、先の関西ジュニア・フィギュアスケート大会で優勝し、学校内で注目の的。ただ、学校でも彼女が通うスケートリンクでも、必ずしも彼女に好意を持っている者ばかりではなかった。

同じ中学校に通う二人だが、久しぶりに再会すし、ユンナはサトルを半ば強引に、古巣のスケートリンクである大阪臨海スポーツセンターに連れて行く。しかし、かたくなにフィギュアスケートを拒み帰ってしまうサトル。サトルがスケートを拒むのは、実は、死の直前に母の久美との間に生じたある事が理由だった。

サトルと父・雅之(42)は、サトルがスケートに没頭し出した頃から久美の母・光代(65)と二世帯同居している。フィギュアスケートの練習にはお金がかかり、母親との同居は好都合だったからだが、久美亡き後、雅之と光代の仲は必ずしも上手くいっていない。生前、久美と雅之は息子・サトルのスケートの事で喧嘩が耐えず、光代はそんな光景に胸を痛めていたのだ。

ユンナはボーイフレンドの翔太(13)にも協力させ、強引にサトルをスケートの練習に連れ出す。実は、ユンナがサトルを強引に練習に誘うのは、彼女が数ヵ月後に日本を離れ、韓国に渡ってオリンピックを目指す事を決め、その前に、どうしてもサトルと一緒に滑りたかったからだった。ユンナの真意を知り、彼女と一緒に市民大会で滑る事を約束するサトル。その日からユンナとサトル(そして観客の翔太)の練習が続く。

そんな中、ユンナを妬む複数の者たちが携帯サイトでユンナや彼女の周りの者(サトルを含む)を貶める陰湿な中傷をし、それに傷ついたユンナのクラスメートが自殺未遂を図る。この件で傷つき、学校にもスケートの練習にも顔を見せなくなるユンナ。

心配し、見舞ったユンナの家で、サトルはユンナから、今度の大会、自分と同じ衣装と一緒に滑って欲しい、と哀願される。蘇る4年前の記憶……ユンナはただ一人、サトルがフィギュアスケートを始めた本当の理由、そして辞めてしまったサトルの秘密を理解しており、ずっと胸を痛めていたのだった。

ユンナの真摯な態度を受け、ユンナと一緒に、彼女と同じ装いでスケートの練習をするサトル。一方、突然、社内での立場が失脚し、職場に居場所がなくなった雅之。いたたまれずに外出した先で、彼はサトルが女子スケートの装いでスケートを滑るのを目撃してしまう。狼狽する雅之。帰宅したサトルを一方的になじる雅之だが、それを聞いた光代に罵倒される。娘は事故死する前に

雅之と一緒にいる事で死んだも同然だったのだ、となじる光代に、何も言い返せない雅之。

ある日、旧友・墨田と再会した雅之は、自分は、何よりも愛する息子・サトルのために“新しく生まれ変わることができるのだ”と気がつく。雅之は、墨田と一緒に海外との仕事に新天地を求める事に決めたのだった。その夜、雅之が家族に示した“想い”は、格好悪くて情けなくて拙いけれど、とてもイカしたモノだった…雅之の瞳に、久美を看取ったその後、蘇生した息子を抱きしめた時の涙が熱く蘇る。

そして、サトルとユンナの共演の舞台である市民大会の日がやってくる。

雅之と光代、ユンナの母・ハナ(36)が見守る中、揃いの「蝶」をあしらった衣装で滑るサトルとユンナ。観客席で、久美の幽霊であるクミ(15)が優しい微笑を浮かべてサトルを見守っている。

「僕…真央ちゃんになりたいねん！」

息子の思いに応えられず死んでいった自責の念から、久美は幽霊・クミになってずっとサトルを見守っていたのだった…幽霊仲間の猫と一緒に。

サトルとユンナの滑る真っ白なリンクにオレンジ色の花が咲き始め、やがて一面がオレンジ色のひなげしの花畑のような景色になる。その花畑は、ある理由から亡くなった久美が一番好きだった場所。だから、その幽玄な世界は、クミが観客に見せてくれた幻だったのかもしれない…

そして、それぞれの新しい日々が始まる…

雅之は台湾の新しい仕事場で前向きに働き出している。ユンナは韓国でも陰湿なイジメの対象になっていた。しかし、彼女は負けずに生きている。

そして、サトルの笑顔は、以前よりほんの少しかもしれないが、間違いなく明るくなった…芋虫が蝶に成長したように！